

ヒジキ藻場造成の取組を支援

南薩地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

南さつま漁協管内の久志地区は、以前から藻場の重要性についての意識が高く、これまでヒジキ、ワカメの増殖が試みられてきたが、藻食性魚類による食害等により藻場の回復は見られていない。

当地区では過去の実施において、食害防止策については検討されてこなかったことから、食害防止策を施したヒジキ藻場の造成を試みることにした。

【普及の内容・特徴】

当地区では、これまでヒジキ藻場造成については、苗を挟み込んだロープを現場海域に展開する手法により試みられてきたが、食害に遭うためにロープのヒジキを育成することもままならない状況にある。今回、試験した手法は、南九州市の水産多面的機能発揮対策事業の活動グループが行っている手法で、ヒジキ苗を挟み込んだロープを網で囲み、藻食性魚類の侵入を防止し藻場造成を行いたい場所に設置する手法である。

平成27年1月29日に久志地区の4箇所（うち1箇所は比較のために食害防止策なし）に設置し、経過を観察した。

【成果・活用】

約1ヶ月経過時点で、食害防止策を行わなかったヒジキは、ロープに挟み込んだ部分のみを残し、食害でほぼ消失した。また、食害防止策を施し博多浦港内に設置したヒジキも食害に遭った。これは、囲んだ網の一部が水面下に沈み、そこから魚類が侵入したものと考えられたが、水面下に沈んだ部分は一部分のみであったことから大型の魚類は侵入していないと思われた。なお、南九州市の松ヶ浦地区において、異なる目合いの網で食害の程度について比較試験を行ったところ、小さな目合いのみヒジキが生長した。このことから、藻食性魚類の幼魚による食害が少なからずあることを想定し、食害防止策を施す必要がある。

約2ヶ月経過時点で、いずれの箇所も食害によりヒジキの多くは消失した。コストダウンのため浮きとして竹を用いたが、時間の経過とともに竹の浮力が低下するとともに付着物で網が重くなり、網囲いが水面下に沈み、魚類の侵入が容易になったことが原因と考えられた。

今回実施した手法は、上面も網で覆い水面からの魚類侵入を防ぐことにより食害を防止することが可能と思われた。しかし、網の付着物により水交換が悪くなることから、定期的な網掃除は必要であろう。

次年度は、これまで地区では実施してこなかったスポアバッグによるヒジキ増殖を試みるとともに、港内の一部を網で仕切ることにより魚類の侵入を防止し、そこにホンダワラを固着させたブロックを設置し、藻場造成を試みる予定としている。

また、近隣の坊地区では、上部を開放し周囲のみを網で囲んだホンダワラブロックが食害に遭うことなく生長したことから、両地区で同じ手法による比較試験を実施することも検討中である。



図1 ヒジキ増殖実施箇所
黄：食害防止対策あり
赤：食害防止対策なし



図2 製作状況



図3 設置状況
久志港内 食害防止対策あり



図4 設置状況
久志港内 食害防止対策なし



図5 設置状況
博多浦港内 食害防止対策あり

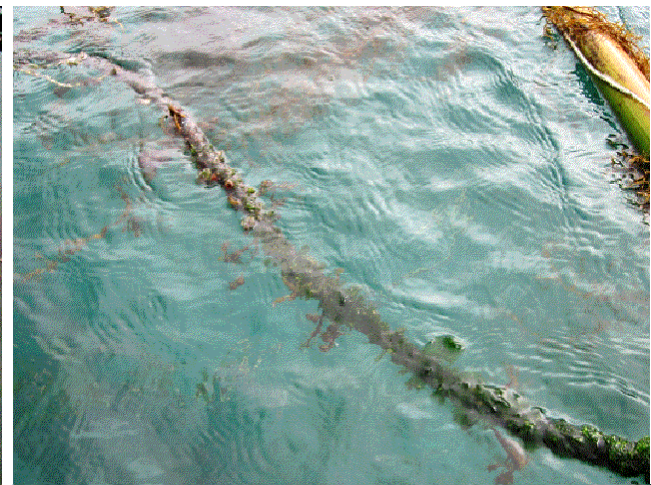


図6 設置状況
博多浦港外 食害防止対策あり